

国立映画アーカイブ開館記念 映画ポスター モダン都市風景の誕生

NFAJ 所蔵《みそのコレクション》より

会場：アーツ千代田 3331 1階ラウンジ ほか

2018年12月12日（水）～2019年1月16日（水）【入場無料】

平素よりお世話になっております。このたび国立映画アーカイブは、所蔵映画ポスターを館外のオープンスペースで展示する企画「映画ポスター モダン都市風景の誕生 NFAJ 所蔵《みそのコレクション》より」を、12月12日（水）より、アーツ千代田 3331 にて開催いたします。

大正・昭和初期モダンの粋を集めて 戦前期の貴重な映画館写真も公開

映画ポスターは本来、映画作品の宣伝材料として印刷され、映画館や街角に貼られ、上映終了とともに役割を終えます。また、そうした実用性を持つ一方、それ自体の高い芸術性やユニークなデザインが人々に強い印象を与えることもあります。とりわけ 1910 年代から 1930 年代には、映画はモダニズム文化の象徴となり、そのポスターも、東京をはじめとする近代の都市風景の大きな要素となりました。

国立映画アーカイブ（旧・東京国立近代美術館フィルムセンター）では、現在約 59,000 点の映画ポスターを所蔵していますが、デジタル化を通じて高度な複製品を作れるようになったことで、貴重なポスターを再び街中に連れ戻すことができるようになりました。

本企画では、所蔵ポスターから、大正・昭和初期の映画ポスター 24 点を選んで展示いたします。展示されるポスターのほとんどは、当館の映画資料の礎をなす《みそのコレクション》から選ばれたものです。また、往年の東京の映画館の記録写真についても、デジタルサイネージを用いた展示を行います。

映画ポスターの魅力や写真資料の歴史的な価値を感じていただきつつ、近代都市の発展とともに人々を魅了してきた映画文化の豊かさを再発見していただく機会となるでしょう。

『東京祭』
(1933 年、牛原虚彦監督)



『コンチネンタル』
(日本公開 1935 年、マーク・サンドリッチ監督)

《みそのコレクション》とは

《みそのコレクション》とは、映画資料の個人収集家だった御園京平氏（1919 - 2000、本名・月村吉治）が生涯をかけて収集したポスター、プログラム（チラシ、パンフレットを含む）、スチル写真、図書など、約 60,000 点からなり、現在では国立映画アーカイブの最も重要なペーパー・コレクションのひとつとなっています。

□■ トークイベント ■□ ※申込不要、参加無料。詳細は HP をご覧ください。

▼12月22日（土）14時～ 会場：アーツ千代田 3331 1階ラウンジ

テーマ：「記録映画からみた東京の都市風景」 講師：とちぎあきら氏（フリーランス・フィルムアーキビスト）

【開催概要】

企画名：国立映画アーカイブ開館記念 映画ポスター モダン都市風景の誕生 NFAJ 所蔵《みそのコレクション》より

会場：アーツ千代田 3331 1階ラウンジ ほか

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 - 11 - 14（東京メトロ銀座線末広町駅 4 番出口より徒歩 1 分）

会期：2018 年 12 月 12 日（水）～2019 年 1 月 16 日（水）

※2018 年 12 月 29 日（土）～2019 年 1 月 3 日（木）は休館

開室時間：午前 10 時—午後 7 時

料金：無料

主催：国立映画アーカイブ

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600（ハローダイヤル）

本企画ウェブサイト：<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/chiyoda2018/>